



平成 30 年 8 月 13 日

各 位

会 社 名 豊 商 事 株 式 会 社
 代表者の役職名 代表取締役社長 安 成 政 文
 (JASDAQ・コード番号8747)
 問 合 せ 先 専務取締役管理本部長 多々良 孝之
 電 話 番 号 (0 3) 3 6 6 7 - 5 2 1 1

平成 31 年 3 月期第 1 四半期累計期間の連結業績見通しに関するお知らせ

平成 31 年 3 月期第 1 四半期累計期間（平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日）の連結業績につきましては現在集計中ですが、決算の概要がまとまりましたので速報値としてお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みですので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 31 年 3 月期第 1 四半期累計期間の業績速報値及び業績の差異

連結

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益
当第 1 四半期連結累計期間速報値 (平成 31 年 3 月期第 1 四半期累計期間) (A)	1,591	226	228	160
前 年 同 期 実 績 (平成 30 年 3 月期第 1 四半期累計期間) (B)	783	△221	△201	△212
増 減 額 (A - B)	807	448	430	372
増 減 率 (%)	103.1	—	—	—
(参考) 平成 30 年 3 月期実績	4,978	293	334	267

2. 差異が生じた理由

連結業績見込み

平成 31 年 3 月期第 1 四半期累計期間の我が国経済は、日本銀行による金融緩和政策が継続される中、堅調な世界経済、設備投資の増加及び雇用者所得の拡大を背景に輸出及び生産活動に加えて、個人消費なども総じて回復しており、先行きの経済も輸出や個人消費が起点となり緩やかに回復する見通しであります。

一方、世界経済は、米国では金融政策及び通商政策ともに新たな段階へと変貌し、堅調な企業業況を背景に景気拡大を継続しております。中国では貿易摩擦等不確実性の高まりなどを背景に金融政策はより経済の安定を重視する一方、外需にけん引される格好で生産活動は拡大しております。今後の世界経済全体では緩やかな回復を維持する見込みであります。

このような環境のもとで、商品先物取引の総売買高は 539 千枚(前年同期比 22.7%増)及び金融商品取引の総売買高は 361 千枚(前年同期比 27.1%減)となり、受取手数料は 1,476 百万円(前年同期比 99.5%増)、売買損益は 114 百万円の利益(前年同期比 165.7%増)となりました。以上の結果、営業収益 1,591 百万円(前年同期比 103.1%増)、経常利益 228 百万円(前年同期は 201 百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益 160 百万円(前年同期は 212 百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)を計上する見込みであります。

以 上